

## 会 議 録

会 議 の 名 称	第1回宍粟市地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	平成27年4月30日（木）14時00分～16時00分	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 502 会議室	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委 員 氏 員 名	（出席者） 林昌彦、玉田恵美、三渡圭介、岡本一也、長田博、春名千代、田口すみ子、山田寛、古根川淳也、柏野茂樹	（欠席者）
事 務 局 名	宍粟市役所：西山参事 企画総務部：中村部長、世良次長 地域創生課：西川副課長、前平主事	
傍 聴 人 数	0名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1．開会 2．委嘱状の交付 3．市長あいさつ 4．戦略委員の紹介 5．委員長、副委員長の選出 6．諮問 7．委員長、副委員長あいさつ 8．戦略委員について 戦略委員の役割 審議会の進め方 9．人口ビジョンと総合戦略等について 10．その他 第2回宍粟市地域創生戦略委員会の開催日 11．閉会	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） _____	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1. 開会
副市長	2. 委嘱状の交付 (委員に委嘱状の交付)
副市長	3. 副市長あいさつ
副市長	<p>本日は、大変お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。昨日は西播磨フロンティア祭に約2万人、大歳神社の藤まつりに観光バスが29台来られるなど、観光客が多数訪れる季節となりました。今後も非常に期待をしております。この度は、宍粟市地域創生戦略委員会の委員ということで、県立大学の林先生をはじめといたしまして、産官学金労言及び市民の各方面から、委員をお受けいただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。市長は他の公務のため、改めてごあいさつさせていただきます。</p> <p>さて、国においては、ふるさと創生、地方の時代という掛け声の下、たくさんの方の施策を講じられていますが、なかなか効果があらわれるまでには至っていません。日本全体の人口は、今の1億2,000万人から、2060年には8,800万人くらいまで減るとの推計が出されており、社会保障制度を含めた日本の経済社会自体が成り立たなくなるという危機感がある中、待った無しの施策として、今回の地域創生の施策が位置付けられています。</p> <p>宍粟市においては、産業・雇用が増えなければ、活性化はあり得ません。現在、中小企業への利子補給制度や企業立地の制度を改正し雇用の創出に取り組んでいます。</p> <p>今回の総合戦略の策定から検証まで、皆様方には大変ご無理をお願いしますが、お力添えをいただき、少しでも早く地域の活性化ができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
副市長	4. 戦略委員の紹介 (事務局より委員の紹介) (事務局紹介)
副市長	5. 委員長、副委員長選出
副市長	委員より、委員長に林委員、副委員長に三渡委員を推薦。

	<p>一同、異議なく、推薦のとおり決定。</p> <p>6．諮問 市長からの委員長へ諮問。</p> <p>7．委員長、副委員長あいさつ 国が地方創生に本腰を入れて取り組むこととなり、第2次総合計画においても人口問題を最重要課題として位置付けて審議しており、改めてこちらの委員会に関わることになり、また、委員長の大任を仰せ付かりました。この地方創生というのは大変な問題であり、永遠に続く課題だろうと思います。計画を策定しても、それを実行するためにはさらに5年、10年かかるでしょうし、実行してもすぐに効果が出るとは限りません。そういう意味では、この委員会の中だけで完結するというよりは、各界を代表する委員の皆さんから意見やアイデアをいただきながら、この委員会をきっかけにして、また次の新しいアイデアを生み出していくという好循環をつくっていくことが大切だろうと考えております。</p> <p>その中で、私は行政と市民の間のコーディネーターの役割を果たしたいと考えております。計画策定まで、期間が非常に短く、さらに、策定後の進捗管理など、委員の皆様には先々いろいろとお世話になるかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>委員長ともども、第2次総合計画審議会の委員をしておりますが、暗中摸索の中で方向性を見つけるという難しさを痛感しています。今、宍粟市は、少子高齢化どころではなく、人口が急激に減っています。そういう状況の中で、少しでもその流れを緩めていくことが大切です。今回新たに設置された、この地方創生の委員会と、第2次総合計画審議会とで歩調を合わせながらやっていかなければならないと思っています。</p> <p>私はこの地域で生まれ育ち、今現在もここで生活していますが、創生をする上で、よそにあるものを持ってきてやっていくのではなく、今ここにある資源を活かしていくということが大切だと思います。全国的に特区という取組みが進んでいますが、それが実を結ぶかどうかは、そこに住む住民の責任です。多くの皆さんに関わっていただくこの委員会には、1つのステーションのような役割が求められていると考えています。私も、微力ながらも、皆さんと方向を見いだしていくよう努力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
	副委員長

事務局	以降の進行は委員長をお願いします。
事務局	8．戦略委員会について 戦略委員の役割 審議会の進め方 (事務局より資料を基に説明)
委員長	会議の公開について事務局より提案がありました。恐らく、非公開にするような内容はないと思うので、基本的に公開とし、もし支障がある場合はその都度柔軟に対応するという形でよろしいでしょうか。
委員一同	(異議なし)
委員	会議は5回程度を予定しているということですが、2年間で5回ですか。
事務局	今年の11月までの間で5回程度です。
委員長	会議録の公表について、これは他の審議会、委員会と同じ扱いと理解していいですか。
事務局	はい。同じ手続きで公開したいと考えています。
事務局	9．人口ビジョンと総合戦略等について (事務局より資料を基に説明)
委員長	資料の62ページに、地方人口ビジョン策定等のプロセスのイメージ図がありますが、この委員会では、まず現状をしっかりと把握し、その中で将来のビジョンを決定して、それが実現できるような総合戦略を策定するという流れになっており、今、現状について説明をいただきました。 その後、64、65ページに策定のイメージが示されています。これは、このとおりにしなければならないというわけではなく、おおよそのイメージです。現状分析については、ちょうど第2次総合計画を策定している関係でさまざまなデータが整理されており、それが資料として示されています。 この委員会の役割としては、これらのデータから、何を読み取っていくのか、そこにどういう課題があるのかということを考え、まずは将来展望を、次に、それと一体である総合戦略を考えていくというのが我々に課せ

	<p>られた役割という理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員長	<p>それでは、まず現状を理解するという事で、今の説明について、ご質問、ご意見等はありませんか。</p>
委員	<p>第2次総合計画の策定も現在進んでいるということですが、当委員会と重複している委員もおられるのですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員	<p>総合計画というのは、総合戦略のコンセプトも含まれた内容で策定が行われているのですか。</p>
事務局	<p>総合計画というのは、福祉、教育、産業をはじめとした総合的な計画です。その中で、資料の98ページにあるとおり、総合計画では、第2章で「宍粟市の最重要課題」として人口減少の対策を掲げ、人口減少に歯止めをかけないと宍粟市自体が成り立たなくなるという危機感を持って、総合計画の審議を行っていただいています。今回、皆様にご議論いただくのも、まさに人口減少対策についてですので、その点で総合計画と非常にリンクしております。</p>
委員長	<p>77ページからの資料8に、総合計画基本構想素案というものが示されています。総合計画は、この基本構想と、それと一体である基本計画から構成されています。基本構想では、まず、宍粟市の概況や現状を示し、それに対してどういうまちづくりをしていくのかというビジョンを掲げています。そこでは、人口が急激に減っていき税収も減っていく中で、いかにしてここで住み続けることができるようにするか、必要なサービスをどのように提供していくのかということが大きなテーマになっています。ただ、総合計画を策定する上では、人口規模をある程度想定しなければなりません。102ページで、「将来の人口目標」というところが黒丸になっていますが、これは、去年の12月末に国から地方創生という施策が出され、それとの関連が深いので、この目標人口については、戦略委員会との整合性をとる必要があるということになったためです。その点でも、両者はかなり重なりがあります。</p>

	<p>全体のイメージとしては、人口減少が続いたとしても住み続けられる宍粟市をつくる、それを生活圏としていろいろなサービスを受けられるような仕組みづくりを今から目指していくというのが、総合計画のテーマです。それに対して、さらに、人口減少を食い止めるという少し高い目標を設定し、それに向かって何ができるのかということを検討するのがこの委員会で、そのために、雇用に関直接関わる方にも参加いただく形で、この総合戦略委員会が構成されているのだらうと理解しています。</p> <p>ほかにご質問、ご意見等はありませんか。説明を受けてすぐに意見を出すのも難しいと思いますので、気付いたことがあれば、その都度出していただければと思います。</p>
事務局	<p>(事務局より地域経済分析システムについて説明)</p>
委員長	<p>事務局のほうで何か分析はされているものなどはないですか。例えば、総合計画の準備の中でのデータがありますが、そこで気付かなかったことが別のデータでは分かったとか、あるいは、これからビジョンや戦略を立てていくときに、このデータがこういうふうに使えるというような情報はありますか。単にデータを示すだけではなく、それがどう使えるのかというところが重要だと思います。</p>
事務局	<p>13～15 ページにお示ししているとおり、宍粟市の人口減の要因として、転出の方が非常に多い、つまり社会減の部分が多いということがあるので、そこをまず食い止める必要があると考えています。そこで、例えば空き家を活用して転入者を増やしていくとか、平成 27 年度中にパークアンドライドの駐車場を整備して、阪神間でも宍粟市から通勤できるようにし、今の社会動態を縮小していく等の対策を進めたいと思っています。</p> <p>また、15 ページにあるとおり、高校や大学進学で出て行った方に、また宍粟市に帰ってきていただくことも人口減対策になると考え、データに出ている数値を基に、そこに絞って戦略を立てていきたいと思っています。</p> <p>19 ページでは、転出について、姫路市、たつの市への転出が多いこと、世代では 20 代の男女の転出が多いというように、年代まで絞られていますので、なぜ姫路市なのか。なぜその年代なのかというところを分析して、戦略を打って、社会減の部分をまず食い止めるというところで、これらのデータが有効に活用できると考えています。</p> <p>あるいは、まだその分析までは至っていないのですが、事業所の関係についても、宍粟市の産業の中でどの分野が今後世に出て行くのかという</p>

	<p>ころをこれらのデータから研究し、PRしていきたいと考えています。</p>
副委員長	<p>13ページの、2013年度の転入数と転出数の差の約300件について、この中で、例えば、18歳になって就職または進学された方々の数と、家族で転出した数というのは出せますか。</p>
事務局	<p>世帯の転出までは分かりません。ただ、転出した方の年代は分かるので、そこから、卒業してそのままその地で就職されたのだろうというように、ピンポイントで絞ることはできると思います。</p>
副委員長	<p>19ページの2の表の転出超過の内訳について、姫路へ一番多く出ているということですが、その年代は分かりますか。</p>
事務局	<p>過去3年までは分かります。</p>
事務局	<p>15ページの時系列の分析の表で、進学の際に大幅に転出し、20歳を過ぎたところでいったん戻ってくるのですが、その後、20~30代のところで、もう1回転出が増えています。この部分が、先ほど言われました、19ページの、姫路・たつので新婚の所帯を構えるという部分ではないかと推測しています。</p>
副委員長	<p>その辺に効果的な手だてがあるような気がします。</p>
委員長	<p>データというのは単なる結果だけで、なぜそうなるのかという理由は分かりませんので、皆さんが持っておられる情報を出せる範囲で教えていただければありがたいと思います。</p> <p>こういうデータが欲しいとの委員からのリクエストがあれば、できるだけ応えていただきたいと思います。</p>
委員	<p>欲しいデータが1つあります。それは、市内の各自治会ごとの人口の推移のデータです。例えば、波賀町の一部の自治会では10年間で56%くらい減っている所もあれば、山崎の河東などは逆に50%くらい増えています。千種は、さほど減少していません。このように、結構地域差があるのです。さらに、その間の推移が細かく分かれば、非常に役に立つのではないかと思います。</p>

事務局	どこまでさかのぼられるか分かりませんが、可能な限り、出したいと思 います。
委員	地方版総合戦略を策定すると、P D C Aサイクルの中でK P Iという指 標を出していき、それで達成度を検証していくことになると思うのですが、 そのときに、これをやったからこういう結果になったということをきちん と結び付ける作業をしていかなければならないと思います。こういうデー タも、そのデータ単体では、何が原因でこういう結果になったのだとい うことが分からないので、他のいろいろなデータと組み合わせながら、こ ういう政策をしたからこうなったのだとか、こういう事象が起こったから こういう結果になったのだということが分かるようなデータの示し方をして いただければと思います。
委員	宍粟市は、今の出生率であればこういう傾きで下がっていくけれども、 施策をすることでそれが少し持ち上がる。それをどこまで持ち上げるかを この会議で考えるということですか。
事務局	そのとおりです。市が戦略の素案を作りますので、その素案についてご 意見をいただきたいと考えています。
委員	大切なのは、持ち上げるために何をするかということですが、何をする かについては総合計画で決めるということですか。
副委員長	双方で情報を交換しながら、同じ方向を向いて進めていくものと私は思 っています。総合計画というのは、ある意味、総花的で、あれもこれもと いう形になっています。戦略では、人口減少に絞り込んで議論していくイ メージを持っています。
事務局	この場では、具体的な事業名を挙げながら、目標を立て、検証してい たくという流れで考えております。
委員長	この委員会に何が求められているのかということについては、もう少し 説明をしていただき、共有していく必要があると思います。今回は資料も 多くいただいていますので、次回にもう一度整理をして、この委員会が果 たすべき役割も明確にしながら、人口ビジョンの議論につなげていくとい う進め方をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。



委員一同	(異議なし)
委員長	他に必要なデータのリクエストはありませんか。欲しいものがあれば、後日でも結構ですので、事務局まで連絡をいただければと思います。
事務局	10. その他 第2回宍粟市地域創生戦略委員会の開催日 (5月21日(木)午後2時に決定)
事務局	今日を含めて5回程度で、人口ビジョンと戦略を作り上げていただく予定です。本日のご意見等を伺う中で、10年間の総合計画とリンクさせつつ、何をすれば人口の減少が止まるのか、どのような戦略を立てるのかを考えるというのは非常に難しいことと、改めて感じています。委員からの提案やご質問はいつでも寄せていただくとか、事務局からも事前に資料を示すなど、頻繁にやりとりをしながら、スムーズな進行ができるよう努めたいと思っています。
委員長	計画というのは、策定時に全て見通して完ぺきな計画を立てるということは不可能で、そういうものを作ろうとすると、結局、分析倒れに終わってしまいます。人口が減っていくという悪循環を、何とか良い方向へ転換するには、一発逆転はあり得ず、手数が必要なのだらうと思います。あることを始めたら、それを受けて、二の矢、三の矢が続くような仕掛けが必要なのです。そういう意味では、11月までに短時間で作った計画だけが全てではなく、次に続くようなものにするということも考えながら進めていかなければいけないと思っています。
市長	市長あいさつ 大変遅れまして、申し訳ありません。 宍粟市は合併10年を迎え、いよいよ次の10年をスタートしました。折しも、国や県も地域創生という大きな流れになっております。我がまちも人口減少社会の中にどっぷりつかっていますが、そういう中で、宍粟市の将来に向かって、どういうまちがいいのか、どうあるべきなのかということについて、皆様方に戦略を練っていただくことになります。 説明があったと思いますが、これからの時代の最大の課題は人口減少への対策です。宍粟市も人口減少への挑戦を大きなテーマとし、皆様方の英

	<p>知を結集していただいて、戦略を描いていただきたいと思います。人口減少というと暗いイメージがあるのですが、これからのまちの将来を見据え、人口だけを考えるのではなく、明るい展望を持ったまちにするということも大事です。皆様方のいろいろな議論の中で、そういう形に導いていただければと思っています。</p> <p>市としても、地域創生の担当の課を設け、市民の皆様と一体になりながら、まちの将来に向かう体制をスタートしておりますので、今後ともぜひよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>委員長</p>	<p>11. 閉会</p> <p>以上で第1回地方創生戦略委員会を終了します。最後に、副委員長より、閉会のあいさつをお願いします。</p>
<p>副委員長</p>	<p>本日は長時間にわたり、ありがとうございました。市長の話の中に「人口減少への挑戦」という言葉がありましたが、人口減のみならず経済界も、20年前と比べると、製造面や商業の数値が60%を切るような状況になっています。これもこの地域の大きな問題です。その対策として、働く場所の確保ももちろん重要ですが、若い人々の結婚、出産、育児に対する価値観や意識が随分変わってきているので、そういうことも含めて一緒に考えていくことが、私どもに課せられた課題だと認識しています。</p> <p>ここにお集まりの委員の皆様一人ひとりが自分なりのビジョンをぜひ考えていただいて、それをぶつけ合うような会にできればと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>